

料金後納郵便



還暦記念

中里太亀 新作展

令和7年11月14日(金)～19日(水) 会期中無休

開廊時間：午前11時～午後7時（最終日19日は午後5時まで）

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

■茶会のご案内 立冬の茶会【席主：中里太亀】

日時：11月18日(火) 11:00席入、12:30席入、14:00席入

場所：新宿 京懐石 柿 傳（東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル） 会費：7,000円(税込)

受付・寄付「安与ホール/7階」→薄茶席「残月亭/9階」→点心席「古今サロン/6階」

申込：参加ご希望の方は、下記のお電話かメール又は下の二次元コードからお申し込み下さい。

中里太亀さんが今年還暦を迎えた。陶芸をはじめた時、父からは何も教えてもらえなかったが、ひと言「一日500個を、まず目標に作れ」と言われたという。太亀さんとはもう30年近くの付き合いだが、その間、彼は「生活のなかでいつも使ってもらえる器作り」を貫いてきた。「音楽も、食べものも、やきものも手作りの本物の味でなければ気がすまない」というのが中里隆流の生き方だが、その生き方は太亀さんにも受け継がれている。太亀さんの器を使うファンは、買い替える時、また太亀さんの器を買うという。その訳は、いつも使う人のことを思って作っているからだ。日常使いの器は、皆シンプルで端正なものが多い。その姿勢は、茶の湯の器であっても変わらない。裏面の《唐津南蛮叩き水指》は、還暦を迎えた太亀さんの心境がよく現れた作品である。薪窯のなかで程よく変化し、灰被りといい、焦げといい、火色といい、何とも自然体で気持ちがいい。歌舞伎で言えば、まさに名脇役である。

森孝一（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）

陶歴 昭和40年 唐津に生まれる
昭和63年 父・中里隆のもとでやきものを始める
平成5年 柿傳ギャラリーにて、中里隆・奥三十郎、三人展出品
平成6年 万葉洞みゆき店にて、父子展出品
平成7年 伊勢丹新宿店にて個展開催 以降、日本全国各地にて個展を開催

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

11/18 茶会
申込ページ





